

学校林の現状と 総合学習への取り組みは



別府 静春議員

別府 静春議員 子供たちの「いきる力」を育む観点から、多様な森林体験学習や環境教育の重要性が叫ばれ、その一環として、「森林との出会いの場」が注目されている。県内の学校でも、教科・教育・総合的な学習として、学校林の活用校が増えてきているようだ。本町における学校林の実態と総合学習の場としての活用への考え方は。

福留教育長 小・中学校のなかで、「林業体験学習」を行っているのは一

校である。子供たちに森林への愛着を持たせることは、保護の精神の涵養につながり、そして環境教育の面で大切なことであると思う。

「小・中学校の森」の設置を

別府議員 林野庁においては、「森林環境教育活動」や「健康と癒しの森づくり」に力を入れ、学校林を自然環境を学ぶ「教室」に位置づけ、学校林を増やす助成対策を展開している。総合学習の携わるフィールドとして、「小・中学校の森」を設置する考えはないか。

「千年の森」構想

で実現を

北村町長 町有林の一部を、町民のフィールドと



10月23日にオープンした「宮之城ちくりん館」

して県に登録し、植樹祭等をボランティア参加で開催している。現在、「千年の森」構想は検討段階

であり、「小・中学校の森」を考慮しながら、実際に努めたい。

ちくりん館に健康食品コーナーを

別府議員 轟の瀬にオーブンする「ちくりん館」の特産品として、自然薬

草類をアレンジした「健康食品」を揃えたコーナーの取り組みは、集客力

を高め、ひいては地域活性化に繋がると考えるが。

町長 営農・生産・販売指導面も含め、特色ある付加価値商品として、協議会で検討したい。

起業家支援

事業の創設を

別府議員 農産物を加工・販売、あるいは特産品開発をしたいという人に、町独自の助成と指導助言があれば、起業家の育成と地域活性化に繋がると思うが、起業家支援事業の創設は考えられないか。

本町にしかない

「モノ」づくりを

町長 地域の活性化や経済発展を図るうえで、事業の創設は必要なことと考える。本町にしかない「モノ」づくりを基本に、試作試験、調査、開発研究等への一部助成事業の創設を検討したい。